



FOUNDED 1905

茨城支部報

(No.3)

(社) 日本山岳会茨城支部 (JAC Ibaraki)

Ibaraki Section of the Japanese Alpine Club

2010(平成 22)年 12 月 1 日発行

発行元住所 〒305-0045

つくば市梅園 2-21-21 浅野勝己方

目 次

p. 1・・・測量と山

p. 2・・・第 2 回海外山行

p. 4・・・2009 年度の活動報告

p. 5・・・2010 年度の活動及び予定

p. 6・・・2009 年度会計報告と 2010 年度予算

p. 7・・・茨城支部規約

p. 8・・・茨城支部役員名簿

p. 9・・・茨城支部会員名簿

p. 11・・・3 支部合同懇親山行

p. 11・・・野外研修会

p. 13・・・支部山行

p. 18・・・特別山行

p. 20・・・個人山行

p. 21・・・会員雑感

p. 25・・・インターネット委員からのご連絡

測量と山

茨城支部長 星 埜 由 尚

私は、(社)日本測量協会の副会長が本職です。会長は、東京大学名誉教授の村井俊治先生ですが、この方は我が国の測量・空間情報工学の権威で、私より 6～7 才年上で 70 才を超しておられます。昨年「劔岳点の記」の映画が興行的にも大成功し、多くの人々が劔岳の神々しい姿と測量のため初登頂に挑む測量官の姿に感動したわけですが、(社)日本測量協会では、木村大作監督を招いて講演などを行っていただいたほか、この映画の撮影と宣伝に協力しました。

このことがあって、村井先生が「我々測量協会も映画を応援する以上、会長・副会長が登らないといかないのではないだろうか」と私に提案され、私もすぐさま賛成し、一昨年の夏、茨城支部会員でもある測地基準情報部長の山田明さんをリーダーにして劔岳に登頂しました。山田明さんは劔岳に 10 回以上登っている強者で

す。それを機に、村井先生が日本測量協会山の会を作ろうではないかと会則まで作って音頭をとられ、村井先生を会長とし、私を副会長として山の会が結成されました。測量協会ですので測量に因んだ山に登るのが原則です。昨年は、三等三角点が改埋された北岳、今年は、北穂高岳から前穂高岳へ縦走し、涸沢岳の三等三角点と前穂高岳の一等三角点にタッチしてきました。前穂高岳の一等三角点は一等三角点としては二番目の高さです。来年は一等三角点の標高が最も高い赤石岳に登る計画を立てています。

全国に測量に因んだ山はたくさんあります。多くの方はご存じと思いますが、山頂には三角点が設置されていることが多いのです。三角点標石が地面から顔を出している程度ですので、余り気にとめる人もいない地味なものです。しかし、これらの標石は非常に精密にその位置や

高さが測られており、日本のすべての測量・地図の作成の基礎となる大事なものです。最近では国土地理院が説明板などを設置している三角点もありますが、多くは余り注目されることなく、山頂の傍らにひっそりと鎮座しています。

日本測量協会山の会は、このような三角点の話題のある山に登り、その紀行をいろいろなところで発表したり書いたりして測量・地図の普及と山への関心を高めようと考えています。村井先生は、測量の分野では権威の学者ですので、そのお話は大変影響力を持っています。私も及ばずながら測量・地図と山に関する拙話や駄文を物しております。年齢的なこともあり、高い山の三角点を体力のあるうちに踏破し、将来は、

低山の三角点を探訪したいと考えています。



前穂高岳一等三角点と「日本測量協会山の会」

茨城支部 第2回 海外山行

白頭山

西川 元 禧

茨城支部が発足して3年目、支部会員数30人と全国最小規模の支部であるが、毎年、海外山行をしようという事で、昨年の韓国最高峰ハンラ山及び智異山に続いて、今年は中国吉林省（旧満州）と北朝鮮との国境にある白頭山（中国名は長白山・朝鮮半島の最高峰）に出かけました。

白頭山は天池という火口湖（標高約2,300m）の周りを16のピークが囲み、天池の中央を国境が通っていて、16のピークのうち最高峰の將軍峰（2,744m）は北朝鮮側にある。山体の直径が100kmという広大な裾野を持つ東アジア最大規模の火山である。

白頭山を水源として南西に鴨緑江が渤海へ、東には豆満江（図們江）が日本海へ流れ、いずれも中朝国境となっている。また白頭山は清朝を開いた満州族の発祥の地としての伝説があって清代には聖地として祀られ、一方、朝鮮族では古くから建国神話の舞台として崇められ、

両方の住民から聖山とされてきた山で、戦前には日本山岳会会員の今西錦司氏等も登っている。

我々の予定コースは中国領内を西側の登山口からいくつかのピークを8時間かけて縦走し、北側にある長白瀑布へ下山するルートである。

期間：平成22年8月3日（火）～7日（土）

参加者：

茨城支部会員：星 埜 由尚、高木 康雄、
山本 幸生、西川 元禧

千葉支部会員：吉永 英明、石岡 慎介

千葉在住会員：山口 光子

その他ゲスト：伊藤 正之、石田 なよみ、
天明 裕美子、領家 彰子

（合計11人）

行動記録：

3日昼、成田を出発した一行は、夕刻ソウル（仁川）空港に到着し、仁川の町中を歩きレストランで韓国料理の夕食を済ませてホテルへ。

4日はソウルから空路、中国吉林省延辺朝鮮

族自治州の州都、延吉市に昼前に到着、そこから専用車で更に約 3 時間かけて白頭山麓の町、二道白河に入り、ここで地元の市場を見学した後、ホテルへ。中国とは言え少数民族の朝鮮族が多く、昔の高句麗時代や、その後朝鮮から移住して来た人達が住むエリアで、役所や学校・商店などの看板が、ハングルと漢字が併記されている珍しい町並風景である。

5 日は愈々登山の日。前夜から今朝にかけての雨で登山を諦めていたが、朝 4 時 50 分バスが宿を出発する頃は青空が広がって皆喜んだ。

ところが、8 時登山口に到着し登りは始める頃、ガスがかかり、頂上稜線に出た時には強風まで加わって縦走は断念せざるを得ず、国境石碑の前で記念撮影したり、北朝鮮側へ数歩越境したりして下山を開始し登山口に戻る。バスで中腹の長白山大峡谷（火山の爆発によって形成された割れ目が浸食により深さ 100m 以上、距離は数 10km に渡って両岸に奇岩が林立した峡谷、1980 年代に偶然発見された）迄行って下車し、大峡谷を散策。更にバスで 2 時間かけて当初下山予定だった北側にある長白瀑布方面へ向かい、瀑布直下まで歩いた。天池の水が落差 68m の滝となって流れ落ち、北へ向かって松花江、更に黒竜江に合流してオホーツク海へと流れる大河の源流となっている。この日は長白温泉ホテルまで歩いて下って宿泊。



白頭山と天池

6 日は早朝から四駆車に分乗して北側の天文峰（2670m）直下まで行き、約 2 時間かけて頂上付近を周回した。青空が出た頂上からは青い天池と最高峰の將軍峰などピークを展望する事が出来て、縦走出来なかった欲求不満が少し解消された。下山後バスで北朝鮮との国境の町・図們へ向かう途中、龍井市内で昼食を済ませ、現在、龍井市役所となっている旧日本総領事館の建物を見学、国境を流れる巾 40m 程の豆満江の沿岸の道路からは対岸の北朝鮮の駅や集落なども見えた。鉄道は戦前、日本が敷設したものだ。

図們市に到着して豆満江を遊覧船で上ったり下ったりして北朝鮮側の岸に生える灌木に手が届きそうな位接近する事が出来て、一見、中朝国境には緊張が見られないが、実際には物陰から川を渡る脱北者を警戒しているようである。この日は延吉へ戻って宿泊。

7 日は朝 6 時にホテルを出て、街の中を歩きながら漢族の人たちが主に利用する延吉卸市場へ向かい、露天の広い市場を見物した後、一旦ホテルに戻り、朝食後、今度は朝鮮族の人たちが主に利用する市場を見物。この地域特産の野菜・果物・穀物の他、それぞれの市場で売られている食料品で各民族の好みの違いが判り興味深い。

各店頭には、牛や羊、豚の内臓が部位毎に分



白頭山山頂にて

けて並べられていたり、特産の朝鮮人参や、木の実、唐辛子、胡椒の種類の多さ、樽に入れた大量のキムチが素材毎に幾種類も並べられて

いる等、地元の人達の食生活が垣間見られる。その後、延吉空港からソウル乗換で帰国した。

2009 (平成 21) 年度の活動報告

(事務局長) 浅野 勝己、(総務委員) 高木 康雄

(はじめに)

当支部は 2007 年 6 月に 27 番目の支部として 21 人の会員により発足したが、現在 31 人となりほぼ隔月の講演会および山行を中心として意欲的にクラブライフを盛り上げて来ている。すなわち今年度は 5 回の講演会および第 1 回海外山行や自閉症者協会への協力登山を含む 9 回の山行を実施した。

講演会 (会員以外の一般市民にも公開)

第 10 回 (09/5/17) 「2008 年ペルーアンデス登山報告」 茨城県山岳連盟 椎名正明氏 (日山協と当支部との交流を図る第 1 回目の会合を持つことが出来たことは、まさに画期的な講演会であった。)

第 11 回 (09/6/14) 「世界の山旅」 和田会員と アルパイン・ツアー・サービス

第 12 回 (09/9/13) 「登る山・測る山」 長通会員の予定でしたが中止

第 13 回 (09/11/15) 「日本の山・世界の山」 千葉支部 小疇会員 (明治大学名誉教授)

第 14 回 (10/1/17) 「劔岳の三角点」 山田会員

第 15 回 (10/3/28) 「キリマンジャロ登山」 川久保会員

野外研修会 (会員以外の一般市民にも公開)

第 2 回 (09/4/30) 「西金砂山・春の植物観察会」 (森林インストラクター) 堀内会員

第 3 回 (09/6/27) 「御前山・夏の植物観察会」 (森林インストラクター) 堀内会員

第 4 回 (09/10/25～26) 「南会津・紅葉とキノコ狩り体験教室」 (キノコアドバイザー) 杉山会員

支部山行

第 10 回 (09/4/30～5/1) 西金砂山、三鉢室山、妙見山登山

第 11 回 (09/8/14～15) 富士登山。10 月の海外山行のための高所順応を期しての 9 人の参加。山頂では NPO 法人「富士山測候所を活用する会」理事長でもある浅野事務局長が所内の案内および日本の最高所での高山病の講座があった。

第 12 回 (09/9/22～23) 阿武隈山地・片曾根山、鎌倉岳、檜山登山

第 13 回 (09/11/21) 山梨県・棚横手山登山

第 14 回 (10/3/12) 大子町・鷲ノ巣山～太郎山 探索登山

第 15 回 (10/3/30) 太郎山登山

特別山行

第 1 回 (09/8/29～30) 茨城県自閉症協会協力登山で磐梯山に登山。28 人の自閉症者およびご家族の登山に対し、当支部の 5 人の会員が協力登山を行った。

第 2 回 (09/11/23) 茨城県自閉症協会協力登山で筑波山に登山。11 人の自閉症者およびご家族の登山に対し、当支部の 4 人の会員が協力登山を行った。

海外山行

第 1 回 (09/10/12～16) 韓国最高峰・漢拏山と第 2 の高峰・智異山登山 (7 人参加)

3 支部 (栃木・千葉・茨城) 合同懇親山行

第 3 回 (10/2/6～7) 国土地理院見学と筑波山登山 (茨城支部担当) (51 人参加)

2010 (平成 22) 年度の活動及び予定

(総務委員) 高木 康雄

総会 (第 4 回)

2010年5月30日(日)土浦うららビルNo. 1講座室にて15人参加で行われた。主な議題は以下の通りである。

1. 21年度事業・会計報告と22年度事業・会計計画の承認
2. 第2回海外登山の件 (朝鮮半島最高峰・白頭山)
3. 自然保護集会全国大会・スタディイン霞ヶ浦と筑波山登山の茨城支部応援の件
4. 茨城県自閉症協会協力登山・上高地キャンプの件
5. 「茨城の山」の企画についての具体策
6. 支部報第3号の発行について
7. その他山行計画

総会後、奥井サロンでの親睦会が講演会の講師・内田会員を交え盛大に行われた。

講演会 (会員以外の一般市民にも公開)

第 16 回 (10/5/30) 「わたしのトレッキング体験・ヒンズークシュから横断山脈まで」
内田会員

第 17 回 (10/9/19) 「カラコルムとヒンズークシュでの最近 1 世紀における氷河の変動」
--最近の衛星画像と探検時代の地図の比較による-- 長岡会員

第 18 回 (10/11/28) 「エクアドル登山と中米の旅」 茨城県山岳連盟 椎名正明氏

第 19 回 (11/1/16) 「ダーウィンの種の起源と人類の誕生」 奥井会員

第 20 回 (3 月中旬) タイトル、講師 未定

野外研修会 (会員以外の一般市民にも公開)

第 5 回 (10/10/17) 「南会津・紅葉とキノコ狩り体験教室」
(キノコアドバイザー) 杉山会員

第 6 回 (10/10/23) 「愛宕山森林植物観察会」
(森林インストラクター) 堀内会員

支部山行

第 16 回 (10/4/18) 風神山～真弓山

第 17 回 (10/8/15～17) 北アルプス有明山

第 18 回 (10/10/18) 三岩岳

以後、隔月毎に支部山行を実施予定（日程と山域は未定）

特別山行

第 3 回 (10/8/28～30) 茨城県自閉症協会協力
登山で上高地山岳研究所より岳沢小屋

海外山行

第 2 回 (10/8/3～7) 中国・北朝鮮国境の山、
朝鮮半島最高峰・白頭山

3 支部（栃木・千葉・茨城）合同懇親山行

第 4 回 (11/2/12～13) 日光・鳴虫山（栃木支部担当）

2009 (平成 21) 年度会計報告と 2010 (平成 22) 年度予算

（経理委員） 西川 元禧

2009 (平成 21) 年度会計報告

収 入 の 部	
前期より繰越	1 0 5, 2 0 0 円
支 部 費	5 9, 5 0 0 円
支部助成金	7 0, 0 0 0 円
その他収入	2 2 円
収 入 合 計	2 3 4, 7 2 2 円

支 出 の 部	
会 場 費	1 9, 1 8 0 円
郵 送 料	2 0, 3 9 0 円
印 刷 費	4 2, 5 0 0 円
支部報発行費	6 7, 0 6 0 円
事務用品・雑費	1 2, 5 1 9 円
支 出 合 計	1 6 1, 6 4 9 円

差引次期へ繰越	7 3, 0 7 3 円
---------	--------------

平成 21 年度会計報告については
荒木浩二、富田郁夫の両監事より
適正である旨の監査意見を受けています。

2010 (平成 22) 年度予算

収 入 の 部	
前期より繰越	7 3, 0 7 3 円
支 部 費	6 2, 0 0 0 円
支部助成金	8 0, 0 0 0 円
その他収入	0 円
収 入 合 計	2 1 5, 0 7 3 円

支 出 の 部	
会 場 費	2 5, 0 0 0 円
郵 送 料	2 5, 0 0 0 円
印 刷 費	7, 0 0 0 円
支部報発行費	8 0, 0 0 0 円
事務用品・雑費	1 5, 0 0 0 円
支 出 合 計	1 5 2, 0 0 0 円

差引次期へ繰越	6 3, 0 7 3 円
---------	--------------

(社団法人) 日本山岳会茨城支部規約

(名称)

第1条 本支部は、社団法人日本山岳会茨城支部 (Ibaraki Section of the Japanese Alpine Club) という。

(事務所)

第2条 本支部は、事務所を茨城県内に置く。

(目的および事業)

第3条 本支部は日本山岳会定款第3条に定められた目的に則り次の事業を行う

- (1) 会員相互の親睦の為の会合、山行
- (2) 登山の指導奨励に必要な集会、研究会および講習会等の開催
- (3) 自然保護活動の推進
- (4) 支部機関紙の発行
- (5) 目的を同じくする他の団体との連絡および協力
- (6) その他、目的を達するために必要な事業

(会員)

第4条 本支部の会員は、茨城県に在住、在勤、在学し支部に入会を希望する日本山岳会会員（以下会員という）、又は本支部規約の趣旨に賛同し、支部に入会を希望する会員とする。

(役員)

第5条 本支部には、次の役員を置く、支部長 1 名、支部長代行 1 名、事務局長 1 名、総務委員、経理委員、広報委員、各 1 名、監事 2 名、自然保護委員 3 名、合計 11 名。

(役員の選出および任期)

第6条 本支部の役員は、総会において支部会員の中から選出する、役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(役員の任務)

第7条 役員の任務は次の通りとする。

- (1) 支部長は、本支部の業務全般を管掌し本支部を代表する。
- (2) 支部長代行は、支部長を補佐し、支部長不在の時は支部長を代行する。
- (3) 事務局長、総務、経理、広報、担当委員は、支部の運営について支部長と協議し業務を執行する。
- (4) 自然保護委員は、本部と連携し、自然保護活動に率先垂範し、意見具申と具体策について支部長ならびに支部と協議し業務を執行する。
- (5) 監事は、役員の業務及び支部の会計を監査し毎年総会に報告する他、各種会議に出席し、意見を述べる事ができる。

(会議)

第8条 本支部には総会および委員会を置き、総会を以って本支部の最高議決機関とする。

- (1) 通常総会は、毎年 1 回支部長が招集する。但し、支部長、支部長代行、監事または委員が必要と認めたときは、支部長は臨時総会を招集することができる。総会の議長は支部長とする。
- (2) 次の事項は総会の承認を受けなければならない。

- ① 事業計画および収支予算に関する事項
- ② 事業報告および収支決算に関する事項
- ③ 支部規約の設定、改廃
- ④ その他委員会で必要と認めた事項
- ⑤ 委員会は、原則として毎月 1 回支部長が召集する

(会計)

第9条 本支部の事業遂行に要する費用は、支部会費、寄付金その他の収入を以て支弁する。

(支部会費および入会金)

第10条 支部会員の入会金は、1,000 円とする、
また年会費は 1,500 円とし毎年6月末日までに納めるものとする。支部会費を未納の会員には、会報その他の連絡を停止することがある。

(支部特別会員の会費および入会金)

第11条 支部会員のほかに、支部特別会員（支部友）の参加を認め、その入会金は 1,000 円、年会費 2,000 円とし毎年6月末日までに納めるものとする。
支部会費を未納の特別会員には、会報その他の連絡を停止することがある。

また、支部特別会員は茨城支部の活動に参加の範囲を限定されるものとする。
ただし、支部長の判断により、本部行事への参加、情報、などは協議できる。

(会計年度)

第12条 本支部の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

(規約の変更)

第13条 本規約の変更は、総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければ変更することができない。

付則 本規約は、2008年6月15日より施行する。

日本山岳会茨城支部役員名簿

茨城支部事務局・つくば市梅園 2-21-21 * 浅野事務局長宅 Tel&Fax029-851-0015

支部長 : 星 埜 由 尚 (13985)
支部長代行 : 奥井 清 (4999)
事務局長 : 浅野 勝己 (12875)
総務委員 : 高木 康雄 (10679)
経理委員 : 西川 元禧 (11916)
広報委員 : 川久保 忠通 (14221)
ネットワーク委員 : 長岡 正利 (10752)

山行委員 : 山本 幸生 (10196)
山行委員 : 山田 明 (14506)
監事 : 富田 郁夫 (8491)
監事 : 荒木 浩二 (11897)
自然保護委員 : 堀内 孝雄 (11526)
自然保護委員 : 和田 光弘 (12154)
自然保護委員 : 山口 定男 (9760)

日本山岳会茨城支部会員名簿

(アイウエオ順)

【インターネットでの閲覧版では、
この部分の掲載は割愛しています。】

【インターネットでの閲覧版では、
この部分の掲載は割愛しています。】

支部特別会員

3 支部（栃木・千葉・茨城）合同懇親山行

（第 3 回） 栃木・千葉・茨城の 3 支部合同 懇親会と山行の経過報告

（事務局長） 浅野 勝己

日時：2010 年 2 月 6 日（土）～7 日（日）

懇親会場所：（筑波山登山口の近くのホテル）
彩香の宿「一望」

山行場所：筑波山登山

スケジュール：

2 月 6 日

13:30～16:00 国土地理院見学

18:00～20:00 ホテルで懇親会

2 月 7 日

8:00～15:00 筑波山神社でお祓いを受けた後、
筑波山登山

概要：当支部の担当で 51 人の参加を得て、6
日午後に国土地理院の見学、夕刻に筑波山
麓のホテルでの懇親、さらに 7 日は快晴に
恵まれて山頂に立ち富士山を仰ぐ絶景を眺
望出来たことは最高の幸運であった。



懇親会でのガマの油の口上



筑波山神社にて

野外研修会

（第 5 回）南会津「紅葉とキノコ狩り」体験教室

石原 尚文

日時：2010 年 10 月 17 日（日）6:30～15:30

場所：南会津・高畑スキー場等でのキノコ狩り

参加者：星埜夫妻・山本・高木・杉山・石原
（ゲスト）石田夫妻・岡田夫妻・杉山夫人



杉山アドバイザーの指導

行動記録：

杉山アドバイザー（別称「キノコ名人」）のご指導で昨年同様「キノコ狩り」が実現し、「民宿りす」のご協力により高畑スキー場等（2箇所）で実施。昨年と違い、本年は大豊作で、



どっさりの獲物と参加者達

参加者一同秋日和の中、キノコ狩りを満喫した。
「男女みな無我の境地できのこ狩り」

キノコ狩り終了後、窓明の温泉で疲れを癒し、宿で地元の酒を堪能した。



ベニテングダケの群生

（第6回）愛宕山森林植物観察会

山田 明

日時：2010年10月23日（土）10:00～14:00

観察地：愛宕山とその周辺（笠間市）

参加者：堀内、柳、山本、山田

（特別会員）西川夫人

（ゲスト）柳夫人、山本夫人（計7人）

現地までどのくらい時間がかかるのか分からず早めに家を出て9時過ぎには愛宕山山頂の駐車場に着いてしまった。きょうの観察会の講師、森林インストラクターの堀内先生も同じころ到着された様子だった。きょうは雲がなく秋晴れの快晴で暑くなく、寒くなく最高の観察日和となった。10時前にきょう予定の参加者7人が駐車場に集合し、最初は愛宕神社までの道をゆっくりと歩きながら道の辺の木や草の説明を聞いた。神社には芭蕉の句碑「夏来ても只一つ

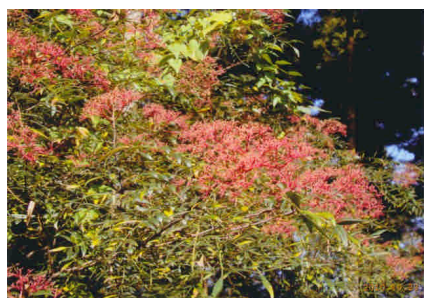
葉のひとつかな」が建っている。一つ葉とは句碑の近くの古い石垣に生えている（ミツデウラボシ）ではないかとのこと。駐車場に戻り天狗の森スカイロジから見晴らしの丘、すすきが原、南山展望台（382m）まで途中で昼食をとりながら歩く。堀内先生のお話は休むことなく続く。ここは「吾国愛宕県立自然公園」内でありこの日は、多くの家族連れや若者達と出会った。少人数のため質問にも丁寧に答えていただき私は初めての観察会参加だったがとても楽しく有意義だったと感じている。私のメモには66種の植物の名前が書かれていて、この内の4分の1だけは名前と植物が一致する。何回か観察会を重ねれば名前を覚えることができそうに思えてきた。正味3時間は歩いたと思うが天候に恵まれ清々しい気分勉強させていただいた。参加者からは次回は是非、春の野山での観察会をと堀内先生にお願いした。



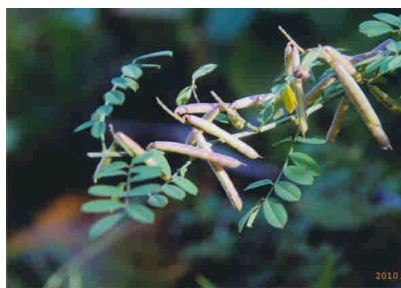
参加者



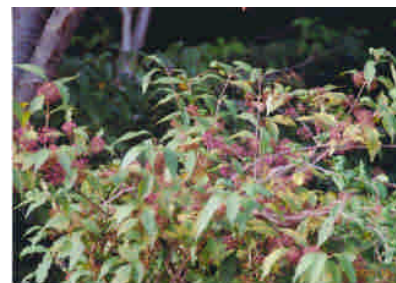
アオツヅラフジ (ツヅラフジ科)



イヌザンショウ (ミカン科)



コマツナギ (マメ科)



ムラサキシキブ
(クマツヅラ科)

支部山行

(第 13 回) 棚横手山～宮宕山

西川 元 禧

茨城支部の 11 月山行として、秋晴れの山梨県・棚横手山～宮宕山を歩きました。

期日：2009 年 11 月 21 日 (土) 日帰り

参加者：西川 元禧(L)、高木 康雄、
伊藤正之(ゲスト) (計 3 人)

行動記録：

牛久駅 5:59 の電車に乗り、神田駅 7:22 発ホリデー快速で高尾駅 8:18 着。高尾駅 8:20 発甲府行き普通電車に乗り換えると車内で伊藤氏が待っていた。勝沼ぶどう郷駅に 9:27 到着。タクシーで登山口の大滝不動尊に向かう。朱塗りの門前で 3 人並んで記念撮影の後、10:00 出発。

展望台に 10:25 着。晩秋の青空の下、空気が澄んでいる為、白銀の南アルプスが目の前にくっきりと大きく眺められる。右から甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、北岳、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、荒川岳、赤石岳、聖岳と 3,000m 級の山々が勢ぞろい。10 分間、眺めを堪能して再び登り始める。10:50 富士見台入口に到着。山腹のススキ原を眼下に、正面には真っ白な富士山がデーンと構えている。右手に 5 分登ると富士見台頂上で、先程とは構図の違う富士山が眺められた。

更に、ゆっくり登る事 40 分で 11:50、山梨百名山の標柱が建つ棚横手山(1306m)頂上に到着。富士山を眺めながら昼食。12:25 頂上に別れを告げ一旦ゆるやかに鞍部へ下って登り返すと 13:00、木が茂って展望の無いピークに到着。山名表示が無いので、そこから先にかすかな踏み跡が 3 方向にあり歩いて見るが、いずれも下りで、先程のピークに戻って良く見ると測量時の標柱の切れ端があり、棚横手山からの時間からも宮岩山(1368m)頂上だと判断された。

13:20 下山開始。もと来たルートで大滝不動尊に向かう。尾根を下る途中で登りには気が付かなかった滝（大滝不動尊の名の由来）が眺められた。

下山途中にタクシーを呼んだので、我々が 14:45 登山口到着直後、タクシーも到着。勝沼ぶどう郷駅へ。更に電車に乗り、缶ビールで乾杯し東京へ戻った。

（第 14 回）鷲ノ巣山・太郎山 探索山行

高木 康雄

期日：2010 年 3 月 12 日（金）晴

参加者：高木 康雄(L)、柳 明雄、富田 郁夫、山本 幸生、西川 元禧（5 人）

コースタイム：上小川駅 8:45－9:40 山ノ神祠
－10:45 鷲ノ巣山 10:55－11:45 広場樹林帯
〔昼食〕12:20－13:30 尾根上（下る決断）
－14:00 トンネル脇－14:30 駅

上小川駅に 5 人が集合した。8 時 45 分に駅から歩き出す、大子方面へ約 2 キロ（約 35 分）の奥久慈橋を渡りバス亭〔山造〕があり、鷲ノ巣山ハイキングコース指導表が立っていた。民家の間のコンクリート舗装路を緩やかに上っていく。紅梅が咲き誇りウグイスの声が聞こえるのどかな田舎の風景が心にしみる。道がカーブしているところに案内の道標があり、その先が茶畑で畑の道を進み小さな小屋が見える手前の笹藪を右折すると、指導表があり山道に入る。

緩やかな尾根道が続き植林の杉林の急斜面を登ると氏神様の祠があった。更に進むと尾根の両側から蛇行する久慈川や民家が見渡せた。心地良い風が通りぬけ疲れを吹き飛ばしてくれる。256m のピークの岩場に出てトラロープが 2 本張られてあり、木の根や岩につかまりながら登るが両側の崖は急傾斜しており慎重に登る。低山ながらスリルのある岩場が続く、その後、一旦下り尾根上を進むと幾つかのピークを越え分岐に出る。

袋田（下高津）方面 90 分と書かれてあり、そこから 5 分ほど登ると鷲ノ巣山山頂表示がある頂に着いた。小さな石の祠があり、広くない山頂で小休止する。此处からは西の尾根に入り太郎山に向かう。しばらく歩き、山域の最高点らしき所から赤テープが 2 方向に分かれるが、一旦は右の尾根を進む。やや広めの尾根道が続き倒木やヤブがあるが次の大きなピークを右に巻き込んだ地点でテープや道が途切れたので引き返し、広めの樹林帯の中で時間でもあり昼食をとった。

その後方向を検討したが、周りに目標になるものもなく、元の最高点に戻りもう一つの赤テープに進んだが途中で途切れ、時間もたっており今回はそのままその尾根を下り、古い沢筋の林道にでて里に下った。林道の橋は全て朽ち果て苔むしており、最後は水郡線鷲ノ巣トンネル脇に出て、列車の橋を渡り、上小川駅には 14 時 30 分到着した。

今回は昼食した地点までは正しかったので、もう少し確認すれば良かったと大いに反省している。次回再チャレンジしたい。

(第 15 回) 太郎山

高木 康雄

期日：2010 年 3 月 30 日（火）

参加者：山本 幸生(L)、西川 元禧、高木 康雄
(3 人)

概要：仏沢林道から太郎山に登り、鷲ノ巣山まで歩いた。ガイド記事とは違い新しい林道が横切っており大いに変化が起こっていた。

(第 16 回) 風神山～真弓神社

山本 幸生

期日：2010 年 4 月 18 日（日）快晴

参加者：大竹 正徳(L)、奥井 清、高木 康雄、
西川 元禧、西川 道子、山本 幸生（6 人）

コースタイム：大甕 9:40 —10:45 風神山（風の広場）10:50 —12:35 真弓神社（昼食）
13:10 —15:35 大甕駅

前日は雪で都心では4月としては41年ぶりの降雪であった。今日は前日と打って変わって快晴となり絶好の登山日和となった。

取手発 7:34 の下り電車は平日の通勤電車以上の超満員でやっと乗れたが、これは今日開催される「霞ヶ浦マラソン」に参加する人たちが乗車しているためであった。土浦駅でこれらの人が降り、車内はがらんとして我々5人はここで落ち合いボックス席に座ることが出来た。車窓から綺麗な桜が見えた。

おおみか

大甕駅で大竹さんと出会い全員6人となった。当初、真弓神社から下山してタクシーで大甕駅

に戻る予定であったが、地元出身で詳しい大竹さんの話で真弓神社を往復することになった。風神山の一角である「風の広場」までは車で登れる舗装道路である。途中、大甕神社に参拝し、日立研究所の桜が丁度満開で綺麗なので写真を撮る。

舗装道路が終わると「風の広場」といわれている所に出た。ここは「風神山自然公園」の一角で日立の町並みや海が綺麗に見えるところである。ここは「高鈴山県立公園」の一部でここから高鈴山まで4時間の縦走路がある。ここでマイペースで歩いている奥井さんとサポートしている高木さんの2人と別れ我々4人は真弓神社を往復してくることになった。アンテナ塔を過ぎて少し登るとまもなく三角点のある風神山に着いた。

頂上は「神の広場」と呼ばれ、ここには風神山という名の由来を解説した案内板と、大分風化しているが風袋を担いだ風神像が浮き彫りされている石碑と雷神の石碑が置かれている。風神・雷神は昔から五穀豊穡や海難回避を祈願した神といわれている。風神の手の指は東西南北を示す意味から4本指で、雷神の手の指は過去・現在・未来をあらわす3本指になっている。

ここから真弓神社までのコースは歩きやすく、ほぼ平坦になっている。地元日立市民のウォーキングのルートらしく、今日は天気も良いので多くの人が歩いていた。道標もしっかりしていて迷うことはない。桜やキブシの花が多く咲いていて綺麗だった。真弓神社の手前から少し下ったところに樹齢推定900年の「爺杉」があり寄って見た。なかなか立派な樹木で谷筋にあるので、風や雷にあわずに現在まで残っているであろう。

程なく真弓神社に着いた。ここは支尾根の末端に位置しており周りは急勾配のがけ地で、樹木がなければ見晴らしの良いところだ。

ここ真弓神社は遥か昔、真弓山山頂付近に祭られていた頃、源義家が奥州平定に赴いた帰りに神社に立ち寄って、弓を奉納したのが真弓神社の由来だと伝えられている。

我々はここで昼食を食べてから大甕駅まで戻ることにする。途中、見晴らし台に寄り西側の町並みと海を見た。午前中の見通しが良い時間帯であれば筑波山や県庁が見えるそうだが今は見えない。あるいは富士山も見えるかもしれない。

どこで奥井組と会えるかなと思いながら歩いていたが、西川さんが高木さんに電話したところ、奥井組は真弓神社手前の三角点(295.7m「点名：弁天」)を確認し、そこで昼食を食べてから駅に向かい、今は大甕神社前を歩いているとの事であった。

我々は大甕駅に 15:35 について全員が揃い今日の山行を終えた。

(第 17 回) 有明山

西川 元 禧

茨城支部の 8 月山行として北アルプス、但し、有名な山は夏休みで混雑しているので敬遠し、主稜線から外れた有明山(2,268m)に登りました。ガイドブックにはあまり登場しないが、麓の安曇野からの姿は立派な山容で「信濃富士」と呼ばれ、日本 200 名山や信州 100 名山にも選ばれているので、登山者からはそれなりに評価されていると思われる。

開山の歴史は古く、享保 6 年(1721 年)に宝重院宥快という行者が氏子 17 人と共に登山したと伝えられ、「日本名勝地誌」にも山の名が記載されていて、明治末期迄は修験者の山として栄えていたそうです。

今回は、このように忘れられた山に登るのと、登山口の温泉に 2 泊して、のんびり楽しもうという趣向です。

期日：2010 年 8 月 15 日(日)～17 日(火)

(2 泊 3 日)

参加者：西川 元禧(L)、諏訪 肇 (2 人)

行動記録：

15 日：

新宿駅 9 時発の「特急あずさ」に乗り、11 時

57 分松本駅に到着。大糸線に乗換えて穂高駅に 12 時 35 分到着。中房温泉行バスの発車時刻まで少し時間があつたので、駅前の「おもしろカフェ」に入って昼食をとる事になった。文字どおり「面白い店」で、若い主人によるアイデア・製作の置物や壁飾り、メニュー、おしぼり、水差し等々、全て意表をついていて、諏訪氏と二人で大笑いし通し。

穂高駅前から小型のバスで 55 分、終点、中房温泉に到着。

中房温泉は標高 1,462m、文政 4 年開湯で湯治場の面影を残した庭内あちこちから湧き出る露天風呂、岩風呂、滝の湯、蒸し風呂、温泉プール等や内湯の大浴場等、数種類の温泉巡りが出来る。「日本秘湯を守る会」から「日本の秘湯」に選ばれている文字通りの秘湯である。

燕岳・餓鬼岳・唐沢岳方面や、大天井岳・槍ヶ岳方面、常念岳方面に登る時の登山口であり、何度も来ているのに泊るのは今回が初めて。案外そういう方が多いのではと思われる。

16 日：

ゆっくり朝食を済ませ、中房温泉から少し下って国民宿舎「有明荘」左横の登山口を 7 時半に出発。笹が茂る急な道を登り、4 合目から花崗岩の岩場を巻いて行く。樺や白檜の原生林の中、ハシゴがあつたりワイヤーが固定された道を登り、岩が多く木の根が張り出した瘠せ尾根を越え、岩場をへつる所もあり、谷に向かって下降した後、稜線に向かって急登するといった具合にアップダウンを繰り返すので時間がかかる。

眼の前にある登山者の多い燕岳とは対照的にこの山は全く静寂そのもので、周囲からはウグイス、メボソムシクイ、ホトトギス、カッコウ、ツツドリ、ジュウイチといった色々な野鳥の囀りが聞こえてきて、原生林の自然の豊かさを感じる。

急ぐ旅では無いと腹をくくって休憩をとりながらのビスターリ登山で、長い登りの末に 12 時、清水岳との分岐となっている主稜線(8 合目)に、やっと到着し一息入れる。

そこから比較的緩やかな登り 30 分程で有明神社奥宮の祠がある頂上に着いた。ステンレス製の鳥居の向こうに麓の安曇野の町が見下ろせたが、燕岳や常念岳方面は残念ながらガスがまとわり付いて、はっきりとした眺めは得られない。

頂上で昼食を含めて小 1 時間休憩した後、13 時 15 分下山開始した。もと来た道を下って 15 時 40 分に登山口に到着。中房温泉に戻ってゆっくり湯につかった。この日はビールと地酒が格別、腹に沁みました。

17 日：

のんびり朝湯を楽しんだ後、朝食を済ませて中房温泉のバス停を 8 時半に出発。9 時半頃に穂高駅前に到着。駅から歩いて 10 分程の所にある彫刻家の碌山美術館を見学し、駅前に戻り、例の「おもしろカフェ」に再度行ってコーヒーを飲もうと店に入ったら、地元のテレビ局が取材に来ていて、我々にインタビューしてきた。地元のテレビにその日の夕方か翌日あたり我々の顔が映ったのであろうが、我々はそのまま列車に乗って松本駅へ。

一旦下車して蕎麦屋で昼食を兼ねビール・地酒で打上げ、特急に乗り換えて新宿へ向かった。

(第 18 回) 三岩岳

石原 尚文

日時：2010 年 10 月 18(月) 6:25-14:10

場所：三岩岳登山（標高 2,065m）

＜行程 11km 標高差 1,284m＞

参加者：山本 幸生(L)、星埜 由尚、石原 尚文
(ゲスト) 石田夫妻、高塚 (計 6 人)

行動記録：

山本リーダーの下、二重滝付近の登山口から出発。新道経由で旧道との分岐点(標高 1,300m 08:00 到着)迄の 2.7kmの間では見事に紅葉したブナ森に一同脱帽。

「冬近し神の宿りしブナの森」

分岐点を過ぎからは窓明山(標高 1,842m)を右に見ながら稜線に沿って避難小屋(09:45 到着)や点在する小湿原を通り、山頂へ到着(10:45)。残念ながら会津駒ヶ岳は見えぬ。昼食後出発(11:10)。分岐点迄同じ尾根道を引き返す。

「秋日和尾根行く人の影深し」

分岐点(12:50)から旧道(約 2.2km)を急勾配をものともせず？下山(14:10 到着)。互いの健闘を称え合った後、散会した。



三岩岳頂上にて

特別山行

(第3回) 茨城県自閉症協会協力登山 上高地「岳沢小屋登山」を顧みて

(事務局長) 浅野 勝己

日程：2009年8月28日(土)～30日(月)

参加者：総勢35人(支部関係者8人)

昨年8月末の磐梯山登山および11月の筑波山登山に次ぐ3回目の山行として長野県上高地に近接する「岳沢小屋」を目指し登山することとなった。

12人の自閉症者およびその父母の方々15人、そして我々登山支援の8人の総計35人は大型バスにて水戸・土浦より約7時間を要して28日の午後到着した。当地の日本山岳会山岳研究所に2泊して「同じ釜の飯」を食してなごやかに交流の出来たことは誠に楽しい思い出となった。



山岳研究所での団欒

さらに快晴に恵まれ29日の早朝より約3時間半を要してゆっくりと前穂連峰を望む「岳沢小屋」を目指し、全員無事に到着して大きな歓声を上げることが出来た。

参加された父母のお一人より「子どもとの日々の生活では決して見かけることのない『嬉しそうな顔』を登山中に見ることの出来た事は何物にも換えがたい瞬間であった」とのお話をお聴きし、非常に感動した。

自閉症の病因が脳内の神経伝達物質であるセロトニンの低減であるとの近年の研究成果からすれば、「登山による感激」はおそらくこのセロトニンを活性化しているのかもしれない。

今後とも微力ながら出来る限り登山支援のお役に立ちたいと考えている。



岳沢小屋への登山



岳沢小屋(標高 2170m)にて

自閉症12人 登山で達成感

茨城県内の自閉症の12人が8月末、療育の一環として、保護者らとともに北アルプス・岳沢小屋(標高2170m)までの登山に挑戦した。集団生活を苦手とする自閉症者が、日本山岳会茨城支部のサポートを受けて、全員がそろって登り切った。「やればできるんだ」。到達した親子らは喜びをかみしめて、上高地を一望した。

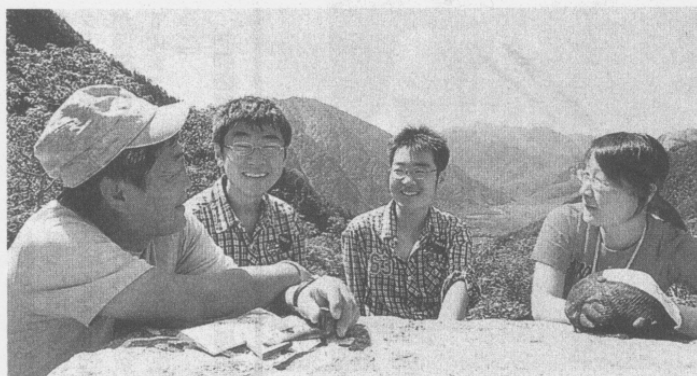
【大平明日香】



岳沢小屋に向かって登山をする大島開人さん(左)ら茨城県自閉症協会のメンバーら。松本市の上高地で。

上高地から北アルプス・岳沢小屋まで

「やればできるんだ」



岳沢小屋に到着して笑顔の大島開人さん(左から3人目)と優樹さん(同2人目) 兄弟—北アルプス・岳沢小屋で

自閉症は生まれつき 状態はそれぞれ。知的の脳の障害で、他人とのコミュニケーションが苦手なものへのこだわりが強い—など症 同県自閉症協会が04年

から実施し、4回目の今回は8月29日に行った。「子供を見ることに精いっぱい、安全に登れるかが心配」と保護者の不安もあり、日本山岳会の有志が毎回、ガイドを引き受けている。

今回参加したのは自閉症がある14〜43歳の男女12人と保護者13人。事前に勉強して一人一人の症状を覚えてきた山岳会のスタッフが8人が先頭から最後尾までにつき、午前5時半に上高地から一列になって出発した。

自閉症の人の多くは言葉や表情で自分の気持ちを表すのが難しく、今回の参加者もほぼ無言で黙々と登った。前回の磐梯山(福島県)では地べたを転げ回ったり、他人の腕をかんざりして登山を全身で拒んだという潮来市の高校3年、仲沢

さとみさん(18)も、今回は静かに登り始めた。母隆子さん(49)は「登山するということ、がだんだん分かってきたんじゃないでしょうか」と成長を実感した。

登り始めて約1時間後、松本市の高校2年大島開人さん(16)が「下山したい」と弱音を吐いた。目ごろから「おれはもうだめだ」などと「絶望した言葉」を口にする癖がある。と氣にかけていた母のさん(41)が何とか励まして、登山を続行した。

約3時間後には、全員が岳沢小屋へ到着した。この日は曇り時々晴れ、登り切った大島さんは、同じく自閉症の弟優樹さん(14)と歌を歌って機嫌そう。他の人たちは、眼下に広がった上高地や、乗鞍岳などぞびえ立つ山々の絶景を満喫。全員ががもなく、

無事に下山した。表情はわかりづらいけれど保護者の多くは「うれしかった」と言い、登山を達成した我が子の気持ちを察していた。

同協会事務局長の隆子さんは「自閉症の子は自己肯定ができないことが多い。それでもこの登山で、『あの時はがんばれた』という経験を体で覚えることができた」と語る。また「自閉症だから何もできない、ということはない。今回のようにプロ(日本山岳会)が手伝ってくれば社会参加できることを、世間にも知ってほしい」と訴えた。

茨城県自閉症協会協力登山の新聞報道記事
(2010年9月28日 「毎日新聞」長野版)

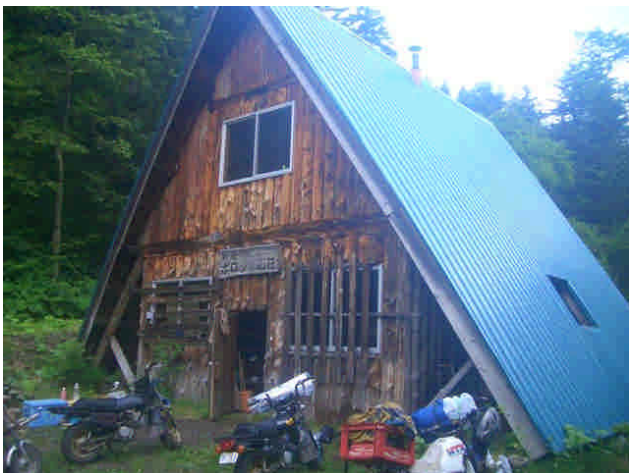
幌尻岳（新冠川コース）

高木 康雄

日高山脈の最高峰・幌尻岳（2052m）は過去に2度ほど額平川ルートで計画したが、運悪く天候に恵まれず断念していた。本年も北海道を含め全国的に天候は不順であったが、山仲間の計画に乗り、4泊5日での3度目の挑戦で、やっと山頂からの眺めと高山植物を堪能できた。

7月1日。千歳空港から昼食後レンタカーで静内町へ。森林管理署で入山の為のゲートの鍵、その他ガス、食品等を購入し、新冠川3ヶ所のダムを経由、イドンナップ登山口表示から30分ほどで無人小屋である糸納峰山荘に18:30分到着、1泊した。

2日目は5:20スタート、18kmの林道歩きを楽しんだ。1時間ほど歩くと幌尻山荘まで15km表示があり、5分でいこい橋に着く。橋上にあるゲートは回転式ドアで、ザックを下ろし、頭、体、足の順でやっと潜ることが出来た。大理石沢を過ぎ、雷沢には鹿の角が立派に残った頭蓋骨が転がっており、奥深さを感じる。林道脇の野生イチゴの味を楽しみながら、原石沢を過ぎると奥新冠ダムサイトに出た。小休止後、幌尻湖の脇の道を進み、幌尻山荘に正午到着。三角屋根の2階建て小屋は沢から引いた水が噴出し、ストーブもあるゆったりした40~50人は泊まれる造りであり、小屋前も広く、午後は昼寝を楽しんだ。



新冠ポロシリ山荘

山頂アタックの3日目、夜半の雷雨がひどく、30分程スタートを遅らせ、4:30に小屋を出る。暗闇を幌尻沢沿いに、削られたり落ちている箇所を慎重に通過、1時間ほどで沢の二股地点に到着。渡渉予定の箇所は残雪が残り、何とか崩れかけた雪の上を渡渉せずに渉り、尾根に取り付き急登を上がる。倒木が多く時間がかかる道で、見晴台を過ぎ中間点にくると眼下に幌尻湖も見渡せ展望も広がりを見せる。7合目の水場を通過、お花畑が広がる急斜面には、ヒダカキンバイ、エゾツガザクラ、ウズラハチドリ等花盛り。9:30には大岩（1930m）を通過。稜線からは美しい北カールの斜面が見渡せる。額平川コースと合流し、間もなく2等三角点のある岩礫の頂上に到着。青空の広がる展望は360度、眺めは雄大で残雪を残したカールや、七つ沼方面から戸蔭別岳のピラミッド形の山容が美しく、北戸蔭別岳やヌカビラ岳方面のスツキリした稜線が間近に見える。当初、リーダーは戸蔭別岳の往復を考えていたが、天候が下り坂で予想外に時間がかかるので、先に進むのは断念し、心行くまで展望を楽しみ、同じ道を下山した。



幌尻岳（日高山脈の最高峰）から見た
トッパツ岳方面

4 日目は同じ道の林道歩きで、朝早く歩いた熊の足跡が何箇所もあり、緊張し笛や鈴を鳴らしながら歩いた。出発地点の山荘に到着し昼食を取っていると、激しい雷雨に見舞われた。静内町に戻り温泉に入る。その夜のラム肉のバーベキューで飲むビールのうまさは格別であった。

熟睡した翌日は(5 日目)ピセナイ岳に登り、幌尻岳を遠くに眺め感激を新たにし、その日のうちに帰京した。

磐梯吾妻スカイラインハイキング

(高齢者クラブの山歩き、自然観察)

堀内 孝雄 (森林インストラクター)

9 月 15 日、老人週間行事として「磐梯吾妻スカイラインハイキング」を行い、吾妻小富士、浄土平湿原やその周辺を歩き、自然観察を楽しみました。このハイキングは私たち、枝川楽遊会自然ウォッチングクラブの第 69 回例会を兼ねて行ったものです。

私たち、枝川楽遊会は地域の高齢者クラブ(会員数 107 人)で、スポーツクラブなど各種の部会やクラブ活動をしております。その一つとして自然ウォッチングクラブ(会員 52 人)があります。平成 14 年 9 月に発足しました。年に 8-10 回ほどの例会を行い、身近な県民の森をはじめ、御前山、西金砂山、筑波山、八溝山など、また県外では上高地、奥飛騨、中央アルプス・千畳敷、蓼科・霧が峰高原などで山歩き、自然観察の案内をしてきました。毎回 20 数人の参加者があります。回を重ねて次回は 70 回の例会になります。記念の例会として「戸隠・志賀高原ハイキング」を 10 月に行うことにしています。

今後引き続き、高齢者クラブとしてふさわしい安心・安全な山歩きの案内をして、森林植物観察や自然観察を楽しんでいただきたいと思います。

会員雑感

あれから 40 年も経ったのだ…

酒井 國光

本年 10 月末に乗鞍青少年交流の家で行われる講演会「山の文化 in Gifu」(岐阜県山岳連盟、日本ヒマラヤ協会、日本山岳文化学会共催)で講演を頼まれた。演題は「滝谷登攀史」だ。滝谷へ行かなくなって久しいので、ほぼ一ヶ月の間一歩から学習し直し、やっとレジメを送ったところだ。その過程で若き日の強烈な出来事が頭を過ぎり続けた。

それは 1970 年の 8 月 8 日のことと記憶している。

滝谷出合の避難小屋にベースキャンプ(BC)を置き、上部の岩場を往復するという定着合宿形式を採って 2 年目の夏である。この年私は、前半を新入会員の合宿に付き合い「徳本峠ー常念岳ー槍ヶ岳ー笠ヶ岳」と 8 日間かけて縦走し、8 月 2 日に BC に入った。

次の日からそこを根拠地として滝谷上部の岩場を日帰りで行き、何本かのルートに登った。明日は下山日、最後の登攀ルートがツルム右岩稜からここ「C 沢右俣奥壁」だった。

核心部のハング帯をトップで登り終えた私は、4-5m 程傾斜が緩くなるまで進んだ。ロート状に上部が開け稜線まで続くスラブを確認

して、岩の窪みに座り確保の体勢に入った。隣の第四尾根のツルムからは仲間が盛んに声援を送って来る。彼らから見る我々は広い滝谷のど真ん中の実にかっこいい場所に居ること間違いなしだ。こちらもいい気になって盛んにコールを送り返す。

下のパートナーに「いいぞ、登ってこい!」と声をかけようとして、「待てよ」と思った。下からのザイルが、磨かれてはいるが岩を擦って上がってくるのだ。「うん、これではザイルがもったいない…」と咄嗟に感じ、2m程戻って小さなピナクル状の岩の下で立ってグリップビレーをする。

「K、登っていいぞ!」と声をかける。Kがセルフビレーを外したか外さないか、いや少し登りだしたか位の短い時間が流れる。われわれの登攀を見ていたツルム上の仲間から「落石だ。奥壁落石だ!」との声。

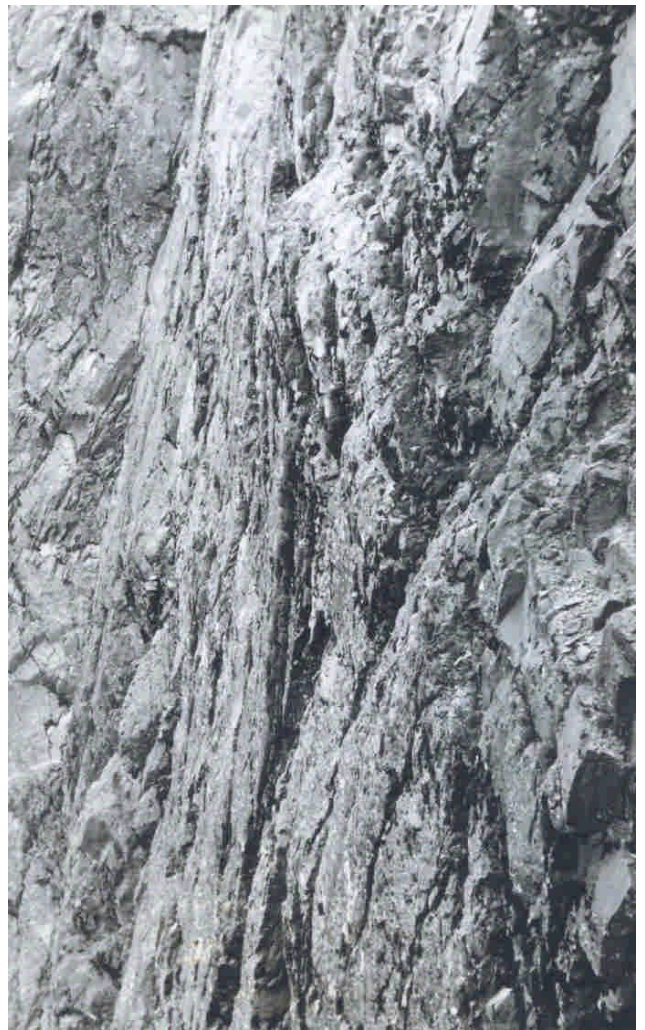
その途端、私の周りに細かい石がパラパラときた。あわてて右手側の岩にぴたりと身を寄せる。と同時に凄まじい轟音と共に、何トン、いや何十トンと思われる程の岩石が襲いかかる。稜線から登山者が落とした石が、周囲の浮石を巻き込んで落ちてきたのだ。

「酒井がやられた!」と、仲間の全てが直感した。落石は先ほど座って確保しようとしていた、ロートの底目がけて集中してきた。ツルムから見ると、落石の集中する場所に、まるで無防備に立っている私…。出来ることは岩にへばり付き、ひたすら耐えるだけ。ひたすら祈るだけ。

岩にぶつかり弾けた無数の小石が、ばらばらとヘルメットや左半身を叩く。それがだんだん体のそばに近づいてくるようだ。石と石がぶつかり合う、あの独特な硝煙のような臭いが漂う。「ああ今度は当たるんじゃないかな。当たるなよ!当たるなよ!」と、不安でいっぱいだ。たとえ当たっても頭だけは避けたいと手で頭を抱え、右半身をぎゅうぎゅう岩に押し付ける。「今は山の神が怒っているんだ。早く治まってくれ! 治まってくれ!……」

ほんの一瞬の出来事なのか、長い時間続いたのか…。分からない。しだいに辺りが治まってきて、轟音の後の不思議な静寂が訪れる。私には、声を出す力も、体を動かす勇気もない。ただ岩にへばり着いたまま、しばし茫然とするのみ。

「さかい! だいじょうぶか!」ツルムからの仲間の声に、はっと我に返る。下のパートナーに「K 大丈夫か ……」と、私。返事がない。一瞬「やられたか」と思った。しばらくすると「やられて動けない…」と、弱弱しくKの返事。ツルムから見ると、まるで無防備の私には掠り傷ひとつなく、ハングの下で比較的安全に見えたKは、肩と脇腹に何箇所かの傷を負ってしまった。私に襲い掛かった夥しい岩石は、上のピナクルで砕け、全てが四方に飛び散ったのだ。



C 沢右俣奥壁

その日は、怪我をしたKを治療のため何人かと涸沢に降ろし、私は4人の仲間といつものようにC沢左俣を下ってBCに戻った。

もし座って確保していたらどうなったのか。今でも背中に冷たいものが走るが、三年前に亡くなった母は「人間は怪我や病気では死なないものだ。寿命だよ」と、口癖のように言った。そして、私はその言葉を今でも信じきっている。

臆面もなく「我が青春は厳冬期の滝谷にあり」と言う私。若い日の夏に経験した一場面を紹介した。

昆虫食体験記

奥井登美子

日本に伝統的な『昆虫食』など無かったと思っ

て入っている人が多い。

しかし、昔、交通が不便な長野県の伊那で、昆虫が蛋白質源として日常ごく普通に食べられていた。小学校6年生の時に私が東京の空襲をさけて疎開したのが長野県下伊那郡山吹村であった。父も母も東京で田舎の親戚を頼るすべもなく、懇意にしていた友人の、そのまた友人という心細いようなご縁でお世話になったのが造り酒屋の『二金酒店』。子供のない夫婦は、親戚でもない私たち兄弟をととても可愛いがってくれた。二金の小父さんは村での有名人。金鵒勲章をもっているし、目玉と声は村で一番大きいし、郵便局の局長もやっている。「おら方の疎開いじめた奴は只でおかないぞ」学校中になり響くような大声で怒鳴ってくれたおかげで、一年生のネションベン小僧の弟（加藤尚武）へのイジメはなくなった。しかし、言葉も、服装も、なにかにも異邦人で、ヘビを捕まえることも、木へ登ることも何ひとつ出来ない無能な私たちは「租界、ソカイ」といわれて差別の対象になった。差別されないようにするには友達のしていることを、何でも無いような顔をしなが

ら行わなくてはならない。私は必死の思

〔蚕のサナギ〕

毎日のように食べるもっともポプ

〔カミキリ虫の幼虫〕

薪の中に隠れているのをイロリの周りで割った時に見つける。子供たちは順番待ち、自分の番がくると、火箸でつまんでそのままイロリの火で焼いて食べる。木の香りがして虫とは思えない香ばしさ。今でもビールのつまみとして食べてみたい食材である。

〔カマキリの巣〕

スポンジ様の茶色の巣を取ってきて焚き火で焼き、中の卵を食べる。食べるところが少ししかなくて、こげ臭くて味もよくわからないが、薬になるというので食べた。

〔クスサンのサナギ〕

大型の蛾。幼虫の毛虫を子供たちは尊敬の念を持って、『白髪太夫』と呼んでいた。サナギを山で採って、焚き火をし、フライパンに入

〔トビケラの幼虫〕

と珍重していた。天竜川に注ぐきれいな水の小さな川がたくさんある。中くらいの大きさの石を見つけてひっくり返してざざ虫を採る。シャリシャリとした歯ざわりで水生昆虫のせいか、虫というよりは魚に近い味がする。

[イナゴ]

学校ぐるみの秋の一大イベントは「イナゴ取り」。各自手ぬぐいを両端で縫った布の袋に竹の筒を口にして持って集合する。稲刈りの終わった田んぼで袋にいっぱいになるほど捕獲。学校では校長先生が特大の大釜に湯を沸かして待っていて、そこで盛大に茹でる。茹でたものは干して売って、学校の備品にするらしい。家でも佃煮にしてよく食べた。時々バツタが入っていたりする。味は干し魚に似ている。

[蜂の幼虫]

『蜂の子採り』は隣・近所・同級生など5~6人のグループでのイベントで行う。まず蜂を見つけて真綿の先に蜜をつけたものを咥えさせる。これが結構難しい。真綿は白くて軽くてふわふわしているから山の中でも目印になる。目印の蜂を追って5~6人で追いかけて、山で地蜂の巣を見つける。巣を燻蒸して蜂を追い出して幼虫をゲットする。蜂蜜の匂いのするチーズの味といったら褒めすぎかな。うじ虫みたいで見た目はよくないが深い味が楽しめる。今でも缶詰にして売っているが、缶詰は高価なわりに風味がない。

四国遍路

川久保忠通

10月26日15時半、ようやく四国遍路88番札所「大窪寺」に到着し、約1300kmの歩き遍路を結願しました。いや、もっと正確に言えば27日も40km歩いて1番札所「霊山寺」に辿り着き、歩き遍路を無事終了した事のお礼参りをしたのですから結願の日は27日と言うべきかも知れません。

思えば2001年の7月から1番札所を出発し、ほぼ2年おきに約1週間ずつ「区切り打ち」(一度に88番札所まで歩く「通し打ち」)に対して或る距離だけ部分的に歩いて次回は前回に歩

き終わった所から遍路を始める事)をして来てやっと6回目で結願出来たのです。5回までは全て真夏の遍路で、体中の水分が汗になって出るような感じがし、いつも熱中症を気にして歩いていたのですが、最後の6回目だけは10月21日に茨城空港から出発するという晩秋の遍路でした。夏に比べると歩きやすく快適でしたが、日の短いのが玉に瑕でした。

歩き遍路をされる方は様々で、定年退職をきっかけに遍路を始めた人もいますが、80歳台の人、若い男女等色々な年齢層の人たちがいます。昔は経済的な事、健康上の事、仕事の事、夫婦関係や家族関係など、色々な悩みを抱えて、それを振り切るために遍路をされる人が多かったようですが、近頃は精神的自己成長の為であったり、ウォーキングやジョギング好きが嵩じて究極の長旅にとりかかった人も多いようです。私の場合は「遍路」というものは何だろうという好奇心と「話の種」に始めたに過ぎません。

その動機が何であれ、1300km以上の道を歩くのですからある程度の体力と精神力が必要であり、それにかなりの額の宿泊費や食費が必要になります。「費用対移動距離」で言うとクイーンエリザベス号や飛鳥での世界一周の船旅より金のかかる旅といえます。

遍路の途中では行きずりの人々からお金や食物など数々のお接待を頂きました。又、宿屋の中では汚れた洗濯物を無料で洗って下さるという労働のお接待を頂いた事もあります。これらの四国の人々の優しさと、我がオカーチャンの理解あってこそその結願であったと心から感謝しています。

遍路を終わった直後は長年の宿題がやっと終わったという安堵感と、これから夏の楽しみがひとつ無くなったなという淋しさがありました。もし今度2回目の遍路をするなら自転車で回ろうと思っています。

この拙文を読んで下さった皆様方の中で、遍路に興味を持ち始めた方がおられれば幸いです。

インターネット委員(長岡)からのご連絡(お願い)

長岡正利

このほど、新規の「インターネット委員」をお引き受けした長岡からのご連絡です。

メールご連絡が可能な各位には既にご連絡差し上げておりますが、その役割は、次のようです。(2010年10月30日の例会にて)

・小生は、インターネットホームページ(HP)を作るような技量はありませんが、本部HPの支部コーナーに掲載して頂く情報を送ることは致します。

本部HPに掲載用の原稿がありましたら、どうぞお送りください。なお、掲載(送稿)内容については、場合によっては、支部長・事務局長と相談いたします。

・「支部会員名簿」を作り、改訂の都度、メールご連絡可能な各位にお送り(添付PDF)するほか、「支部報」に掲載(印刷)されます。
・会員各位への連絡・情報交換のための「メールアドレス整理(メーリングリスト作成)」を行います。

そこで、早速ですが、その名簿「日本山岳会 茨城支部 会員名簿」作りのために、次記各項の個人情報をお送り頂けるようお願い致します。

なお、必掲項目(下記の*)は、会員番号と氏名のみとします。ほかの項目については、掲載はご自由です。

念のため、名簿の冒頭には、そのことを含めて、次の説明を付します。

この名簿について: 記載の内容は各位からのご連絡によるものです。空欄は「記載しない」としてご連絡のなかった箇所です。

名簿は、改訂の度ごとにメール連絡可の方にPDF添付でお送りし、「支部報」印刷の際は掲載されます。

申すまでもなく名簿は個人情報ですので、扱いにはご留意お願いします。訂正等のご連絡は長岡宛にお願いします。

[メールのBCC扱いについて]

「名簿にはメールアドレスは載せないがメール連絡は欲しい」場合は、そのように言って頂けましたらBCC送信(ほかの受信者からはそのアドレスは見えない)に致します。]

皆さまからご連絡を頂きたい事項

- ・ 会員番号 *
- ・ 氏 名 *
- ・ E-mailアドレス(差し支えない場合は、勤務先などのアドレスも)
- ・ 住所(郵便番号も)
- ・ その電話・Fax. 番号
- ・ 勤務先(名称と所在地・電話)
- ・ 所属団体(山関係のほか、ご随意に)
- ・ 興味のある山域・志向の分野(ご随意に)

(最初の名簿のみ、『支部報3号』にある項目はそのまま転載しますが、「掲載したくない」項目があれば、ご連絡下さい。)

ご連絡は、長岡あてに、メール(nagaoka@almond.ocn.ne.jp)でお願いします。

メールをご利用でない場合は、この支部報にある長岡の住所あてにご連絡をお願いします。

なお、メールをご利用の各位には、「支部報」が届いた時点で「名簿」ひな形をメール添付PDF

でお送りしますので、ご連絡はその時点でも構いません。

どうぞ宜しくお願いいたします。

あとがき

編集者から

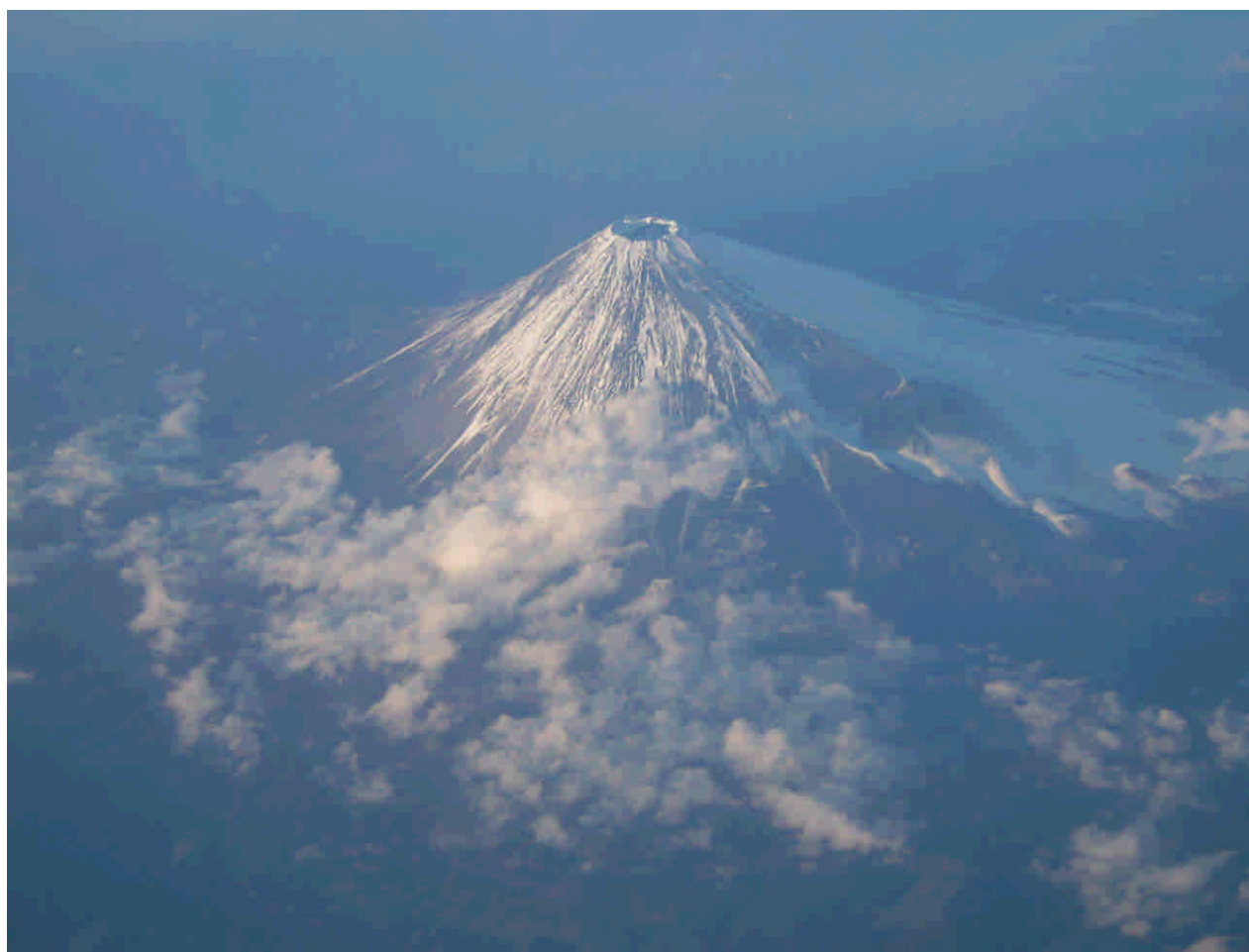
早いものでこの会報も3号となりました。前号が色々盛りだくさんの記事で埋まっていたのに比べて今号は記事の集まりが悪く、少々見劣りのする会報となってしまいました。

編集者である私自身が初心を忘れてしまい、

会報の体裁もマンネリ化したために、それが会員の方々に伝染して原稿提出の意欲が削がれたのかもしれません。

先月からネットワーク担当部門も新設されましたので、殆どの会員が電子メールで手軽に投稿されるようになって、その原稿が編集者を悩ませる程に増えて欲しいなと思います。

(川久保)



上空からの富士山
(2010年1月10日 西川会員撮影)